



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
H P <http://www.zensuiren.org/>
E m a i l zensuiren@k2.dion.ne.jp

編集・発行人 下 川 順

**東北地方・関東地方大震災、長野県北部、
静岡県東部地震により被害を受けられたみなさまに、
心よりお見舞い申し上げます。
一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。**



全国治水期成同盟会連合会
会長 陣内孝雄

このたびの、東北・関東大震災によって被災された皆さまに心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。
また、被災地の会員各位におかれましては、誠に厳しい環境の中で救助と応急対応に盡力されており、
そのご労苦に深甚なる敬意を表し感謝を申し上げます。

未曾有の広域かつ壊滅的な災害の復興に向け、全国の会員各位が心を一つにして協力され、この国難の
克服のためにご支援いただくようお願いし、被災地の会員各位の更なるご健闘をお祈り致します。

当連合会としても被災地の支援に最大限の協力をさせていただきます。

目 次

お見舞い.....	1
『災害対策緊急事業推進費』を活用した再度災害防止対策.....	国土交通省国土計画局調整課... 2
億首ダム定礎式を挙行.....	内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所... 4
全水連便り（全国治水大会を中止、ただし通常総会を開催）.....	7

『災害対策等緊急事業推進費』を活用した再度災害防止対策

－第 1 回配分募集中（平成 23 年 4 月 4 日～5 月 10 日）－

国土交通省国土計画局調整課

1. はじめに

河川区域等や道路において自然災害による被害が発生した場合、施設管理者として、当該施設の機能復旧を迅速に行うことと併せて、施設の防災機能の向上等に資する事業を実施することにより、再度災害防止対策を行うことが、住民の安全・安心の確保を図る上で重要です。

こうした災害対策を目的とした事業について、年度途中であっても、迅速な対応を可能とする制度として、国土の利用、開発及び保全に関する総合的かつ基本的な政策の推進等を所掌する国土交通省国土計画局には「災害

対策等緊急事業推進費」という予算制度があります。この制度のポイントは次のとおりです。

以下、この制度を概説するとともに、活用事例の一部を紹介します。自然災害が発生し、その対応について検討される際に、本制度の活用も併せてご検討いただき、住民や利用者の安全・安心の確保策の一助となれば幸いです。なお、本制度は、重大な交通事故が発生した場合の事故再発防止対策も対象としています。

【災害対策等緊急事業推進費のポイント】

- 公共事業による再度災害防止対策や事故再発防止対策に対する予算支援
- 場合によっては、施設が損傷していなくても対象
- 年度途中に予算配分（一年度 3 回程度を予定）
- 直轄又は補助事業の所管府省による個別案件ごとの要求を基に配分額を決定

2. 災害対策等緊急事業推進費

(1) 予算配分の流れ

本推進費の予算は、当初予算では支出先（予算科目）を定めない目未定経費として一括計上され、年度途中で財務大臣の承認を経て支出先を決定し、各種事業（直轄・補助事業）の所管省庁に対し予算の移替え等を行い、これらの事業の実施を通じて執行されます。国土交通省以外の省庁が所管する事業も対象となります。

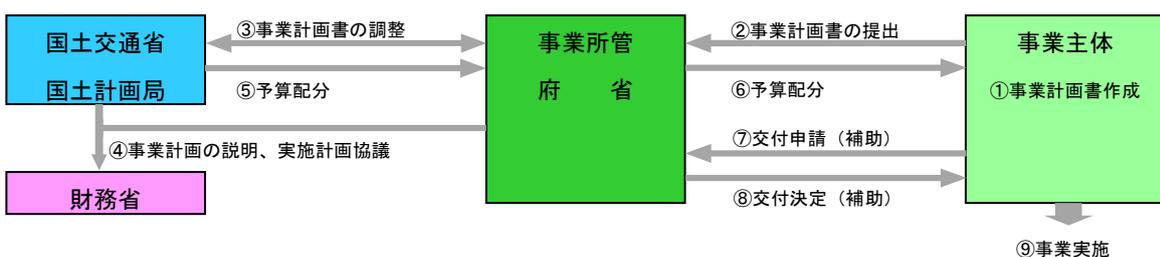
このため、事業主体は、募集期間内に、事業を所管する

省庁に要求していただくことになります。

その際に、目標期間を設定した再度災害防止等のための一定計画（「災害対策緊急事業計画書」又は「公共交通安全対策緊急事業計画書」といいます。）等を作成していただきます。提出された事業計画書等を基に財務省の承認を得て予算を当該事業の所管省庁に移替え等を行います。

【予算配分の流れ】

平成 23 年度予算額 約 270 億円（国費ベース）



(2) 本推進費の活用事例

具体的な河川事業での活用事例を紹介します。
災害の発生を踏まえ、機能の向上を図る再度災害防止対

策を検討する際の参考となれば幸いです。

活用事例（河川）

【事業主体】 福井県
【地区名】 九頭竜川水系江端川
【事業費】 400 百万円

【被害状況】
平成 18 年 7 月の梅雨前線に伴う豪雨により、河川からの溢水が発生し、約 150 戸の家屋が浸水した。

【対策内容】
同様の豪雨により再度浸水被害が発生する恐れがある。そこで、推進費を活用し、河道拡幅及び護岸整備を実施し、再度災害を防止した。



浸水状況



対策後

活用事例（ダム）

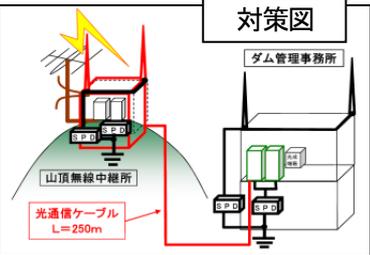
【事業主体】 京都府
【地区名】 大野ダム
【事業費】 46 百万円

【被害状況】
平成 20 年の落雷がメタルケーブルを伝いダム管理事務所に伝搬し、洪水調整等を行う装置が損傷した。

【対策内容】
推進費を活用し、メタルケーブルを光通信ケーブルに交換し、落雷の伝搬による被害の再発を防止した。



被災した装置



対策図

3. おわりに

本推進費は、災害という不測の事態が発生した場合に、機能復旧を行うことと併せて、施設の防災機能の向上等に資する事業を実施することにより、再度災害防止対策を行うための制度です。

各施設管理者におかれましては、本推進費を積極的かつ有効にご活用いただき、本推進費が住民や利用者の安全・安心の確保策の一助となれば幸いです。

この制度に関するご質問・ご相談がありましたら、下記まで遠慮なくお問い合わせください。

国土交通省国土計画局調整課

TEL 03-5253-8367（直通）

FAX 03-5253-1574

また、ホームページにも、この制度に関する情報を掲載していますのでご覧ください。

（http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/kokudokeikaku_tk4_000002.html）

億首ダム定礎式を挙 行 —ダム本体工事が本格化—

The cornerstone of the OkukubiDam was laid
— Move into high gear of the dam-body construction —

内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所
North Dam Construction Office, Okinawa General Bureau, Cabinet Office

1. はじめに

内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所が、沖縄県国頭郡金武町金武地先の億首川水系億首川へ建設を進めている億首ダムにおいて、平成23年2月26日に定礎式を開催いたしました。

当日は晴天にも恵まれ気温も約24℃（那覇の気温）まで上昇し、汗ばむほどの陽光の中、工事関係者や地元関係者・地元小学生も招いて約180人の方々に見守られて式典を執り行いました。



億首ダム完成予想

2. ダムの概要

億首ダムは、沖縄東部河川総合開発事業の一環として、金武町にある水道用水専用の金武ダム（県企業局管理）を再開発し、①億首川の洪水調節②下流河川の適正な流量の確保③沖縄本島の水道用水を安定供給④億首沿川に新たなかんがい用水を供給するという4つの目的を持った多目的ダムです。

ダムサイトは、金武ダムから約120m下流にあり、再開発後のダムの大きさは、金武ダムと比較して、高さが約3倍、総貯水容量は約10倍となります。



ダム堤体（定礎式当日撮影）



位置図

3. 億首ダムの特徴

①世界初CSG工法

億首ダムでは世界で始めて台形CSGダム型式を採用しています。CSGは(Cemented Sand and Gravel)のアルファベットの頭文字で“セメントで固めた砂礫”を意味します。特徴として、現場周辺で調達でき材料を有効利用でき、廃棄岩が減少するため、環境にやさしく、また、コスト縮減が可能となる先進的な技術です。

② ICT（情報通信技術）の活用

億首ダムのCSG打設においては、現在、国土交通省で推進しているICTを活用した新しい施工方法も取り組んでいます。

ICTにより、CSG母材採取管理、ICTタグを利用した母材運搬・仮置き管理、GPSによる敷均し厚や締固め管理、CSG締固め等の施工完了時間の管理、RIによるCSG材の表面水量監視、画像処理による粒度測定などを実施しています。

また、管理に入ってからでも、施工時の電子データを活用して施工箇所の変化や当時の施工方法・気象情報などを確認できるなど、より高度な維持管理が可能となります。

4. 億首ダム定礎式

定礎式は沖縄総合事務局の主催により、CSGにより構築されたダム堤体において執り行われました。式典は、竹澤沖縄総合事務局長の式辞により始まり、国土交通省河川局長（代理：澁谷河川局治水課技術調整官）の挨拶、吉田北部ダム事務所長の工事報告、沖縄県知事（代理：仲田沖縄県土木建築部長）並びに儀武金武町長の祝辞の後、施工会社代表による工事安全宣言を行い、定礎の儀を執り行いました。礎石の搬入では地元金武町に古くから伝わる金武口説（きんくどうち）（※注1）の歌に合わせ、北部ダム事務所長の先導で礎石が搬入され、鎮定箇所に据えられました。礎石の搬入に続き「鎮定（ちんてい）の儀」、「斎饗（いみごて）の儀」、「斎榎（いみづち）の儀」が厳かに執り行われ、ダム堤体の永久堅固と安泰を祈願しました。



国土交通省河川局長（代理 澁谷技術調整官）



礎石の搬入



礎石を鎮定箇所へ

「埋納（まいのう）の儀」では、初めに地元小学校の児童6名がメモリアルストーンを礎石の周りに納め、その後、重ダンプにより搬入された堤体材料であるCSGが礎石埋納箇所に投入されました。CSGの投入に合わせ、くす玉を開披、浦辺沖縄総合事務局開発建設部長の発声に合わせて、式典参加者全員による万歳三唱で定礎を祝し、無事に式典が終了いたしました。

億首ダム建設箇所が米軍演習地（キャンプハンセン）内にあり、ダム工事の施工にあたっては、米軍の協力のもと進めていることから、今回の式典に、在日米国海兵隊キャンプハンセン司令官を含め米国関係者もお招きし、斎饗（いみごて）の儀・くす玉開放に参加いただきました。

ダム完成後は、貯水池やダム堤体やその付近のダム敷地が返還されることが日米間で合意されています。

（注1）：

「金武口説」は古くから地元、金武町に伝わる歌で、金武町内の地名を歌にした道行口説です。この歌の中には、当億首ダムの建設地である「億首川」やその他町内の水の名所が紹介されており、ここ金武町が水に恵まれた土地であることが伺えます。



地元小学生によるメモリアルストーン投入



「斎槌 (いみづち) の儀」
(均したものをさらに強固にするという意味)



「鎮定 (ちんてい) の儀」
(工事を進める道をつけるという意味)



定礎石とメモリアルストーン



「斎鍔 (いみごて) の儀」
(鎮定の儀でつけられた道を均すという意味)



CSG 投入

5. おわりに

億首ダムは、平成22年9月よりダム堤体のコンクリート打設を、11月からは堤体CSG部の打設を開始しており、今回無事に定礎式を終えることができました。今後は、今年秋に開始予定の試験湛水へ向け、工事施工の安全に十分配慮しながら鋭意工事の進捗を図ってまいります。



くす玉開披

<全水連便り>



諸般の事情により本年度の「治水全国大会」及び翌日の「現地研修」を中止致します。

治水 3 月号の発行が遅れましたことにつきまして、深くお詫び申し上げます。

5 月 31 日の当連合会の通常総会は開催する予定ですが、諸般の事情により本年度の「治水全国大会」及び翌日の「現地研修」を中止することと致しました。

その他の行事は現在のところ変更はありませんが、今後変更する場合は有ればご案内いたします。

ホームページでもご案内しておりますが、今般の大地震に係る災害情報は下記のところにアクセス下さい。

災害情報は国土交通省のホームページ「災害情報」

<http://www.mlit.go.jp/saigai/index.html>

地震情報は、気象庁のホームページ

<http://www.jma.go.jp/jp/quake/>

関東地方整備局のホームページ『災害情報』

http://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/kyoku_dis00000018.html

東北地方整備局のホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/>

